

ポジション・ステートメント（見解，提言，解説，その他）

「原子力安全国際シンポジウム（I S O N S 2 0 1 1）声明」

2013年8月  
日本原子力学会  
社会環境部会

2011年11月1日に日本保全学会と共催で開催した原子力安全国際シンポジウム（I S O N S 2 0 1 1）で当学会長が日本保全学会長と共同で発表した共同宣言を広く社会に向けて発信するため前文を含めて以下の通りポジションステートメントに登録する。

前文

2011年3月11日は、原子力発電の歴史において忘れてはいけな日になった。東北地方太平洋沖地震の津波により東京電力福島第一原子力発電所が被災し、1号機から4号機が未曾有の原子力災害を引き起こすに至った。

これまで日本原子力学会は、福島第一原子力発電所の事故に関して、事態の分析や原因の解明、また社会への分かり易い説明、事故の収束を助ける技術活動、さらには発電所周辺地域の環境修復に向けた様々な支援活動をボランティアに進めてきた。また、日本保全学会は、津波で被災した発電所の復旧に関する事後保全や予防保全である津波対策評価ガイドラインの策定などを進めてきた。

原子力エネルギーは、エネルギーセキュリティーや地球温暖化防止といった問題解決の重要なエネルギー源として利用されてきた。それとともに、原子力災害を起こさないようにするための活動も行ってきたにも拘らず、今回巨大津波により原子力災害に至ったことは、原子力に携るすべての者にとって大きな衝撃であり、なぜ防止できなかったのか、何が足りなかったのかなどについて、背景要因を含め、さまざまな観点から分析する必要がある。

本シンポジウムでは、学会の活動だけではなく、世界各国での原子力安全に関する様々な活動を国際機関や原子力産業界の立場から報告していただいた。これは学会、産業界の立場を超えて、原子力安全を考える場としたいという思いからである。日本原子力学会および日本保全学会は、二度とこのような原子力災害を起こしてはならないとの強い決意のもと、シンポジウムでの検討を踏まえ、共同宣言を発表する。

共同宣言

我々は、本国際シンポジウムに参加いただいた学協会および世界の諸機関のご指摘とアドバイスを基に、明らかになった事実を尊重し、高い倫理観のもとで、公平・公正かつ透明な議論を行い、社会に対して信頼できる正確な情報の発信と、具体的活動に自ら取り組む。我々は、二度とこのような事故を起こさないために、学術的専門家集団として、東京電力福島第一原子力発電所の事故を真摯に反省して教訓を抽出し、これからの原子力安全の確保に最大限貢献することこそ重要な役割であると認識する。

我々は、事故から得られた知見の整理・分析を通じて、導き出された教訓を基に、各機関

や行政組織の施策に適切に反映すべく提言や学術的、技術的な支援を積極的に行い、世界で運転されている多くの原子力発電所の安全性をより確実なものとすることに貢献する。

我々は地域社会や日本の復興に向けた技術的なサポートを継続し、信頼回復に努める。

我々は、真理を探求する学術的な立場に立脚しつつ、より高い安全性を目指した原子力安全基準の策定や安全研究など国際的な原子力安全に向けての諸活動に積極的に参画し、世界の原子力発電所が科学的・合理的な管理のもとで安全性を確保することに貢献する。

我々は、以上の活動により、原子力発電に対する安全を追求し、地球環境保全と人類のエネルギーの確保に貢献することを、ここに宣言する。

2011 年 11 月 1 日

日本原子力学会 会長 田中 知

日本保全学会 会長 宮 健三